新潟県

公民館月報

KOMINKAN GEPPO

（昭和33年3月18日　第3種郵便物認可）
発行年　平成24年1月15日
発行定日　毎月15日

2012
1
January

4.5 特集 聖籠町社会教育課事業「週末体験クラブ元気とりで」
聖籠町・高松　勝雄

2 トピックス　全国優良公民館表彰　阿賀町、新潟市鳥屋野地区公民館

3 視点　活動協力員と共に　新潟市・田澤　公敏

3 ひろば　被災地を思いやる心　柏崎市・西村　徹

6 実践記録シリーズ　「多世代多地域で　つながる煮菜の日　笑顔の日」　NPO法人多世代交流館になニーナ・馬場　裕子

7 サークル交流　男子チューボーに立とう（加茂市）／夢は「世界」です！！（津南町）

7 素顔拝見　中山恵里子さん（新発田市）／江口　満さん（五泉市）

8 お元気ですか　上越市・秋山千恵子さん

8 恵贈資料紹介

「小さな島の、旅人になろう」（粟島浦村　～冒険島へ　行こう。～）

表紙解説
５月上旬から７月中旬にかけて、粟島の周り３ヵ所に大謀網（大型定置網）が仕掛けられます。その目的地に向かう船上からの光景です。

No.707

TOPICS

全国優良公民館表彰　二館が受賞

優良公民館表彰を受賞して

阿賀町公民館長　横山　一磨

このたび当公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

阿賀町公民館は、平成十七年四月東蒲原郡四町村が合併し新町「阿賀町」となり本館と三地区分館で構成しています。

今回の受賞は、合併によって広域化した町の住民相互の連帯意識を高めることを目的として各種事業に取り組み、中でも「地域の豊かな自然を生かした体験活動を通じて、子どもの心身の健全育成や自立心の向上、仲間づくり・リーダーとしての資質の育成を図る『ジュニアリーダーMAX事業』により、学区を越えた子どもの交流を活発に展開した」ことが評価されたものです。この事業には、地元高校生やMAXOB・OGからなる「公民館サポーターズクラブ員」の協力をいただき、参加小学生の「良きお兄さん・お姉さん」として職員以上の交流の支えとなったことも大きな特色の一つです。

今回の受賞を契機に公民館職員一同、各種事業の取り組みの充実を決意しております。

最後に受賞に際し、ご尽力をいただきました新潟県生涯学習推進課並びに関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

全国優良公民館表彰を受賞して

新潟市鳥屋野地区公民館長　小林　幸一

当館が地区公民館として開館したのが昭和五十五年。昨年度利用団体の皆様と三十周年を祝い気を引き締め直して三十一年目を迎えての優良公民館表彰受賞となりました。

去る十一月十八日、表彰式に参列し中川文部科学大臣からお祝いの言葉をいただいた後、基調講演を聴講して帰新いたしました。

当館利用者を始め関係先の皆様の多大なるご支援の賜物と厚くお礼を申し上げる次第です。

さて、鳥屋野地区は新潟駅の南側に位置し、人口が約八万八千人で核家族、転勤者、一人暮らし高齢者が多く、住民同士の連帯感が希薄であると言われています。

そんな背景の中でこの度学・社・民の連携による地域コミュニティ活動活性化支援事業を評価いただいた訳ですが、住民自治組織である地域コミュニティ協議会や学校関係者等の協力を得ながら情報交換会や研修会を中心とした事業を展開しています。

また、家庭教育学級の充実や鳥屋野潟周辺の環境等を学ぶ講座も特色となっています。

公民館は住民が利用しやすい雰囲気づくりがとても大切な職場であることを職員5人の共通理念と認識して日々の実務に従事しています。

今後とも地域の交流拠点の一つとして有機的に機能できる公民館でありますよう一層のご支援をお願いしてお礼の挨拶とさせていただきます。

「新潟県公民館月報」　毎月15日発行
いつでも申込み受付中
公民館月報　定価1部150円　年間1,800円（いずれも送料含）
申込先　〒951-8053　新潟市中央区川端町2-9　県林業会館内　県公民館連合会事務局　TEL・FAX025-224-6073

視点

活動協力員と共に

新潟市東地区公民館長　田澤　公敏

平成19年の区制の施行と共に公民館運営審議会は、各区に1つとなりました。財政的な問題があったのでしょう。しかし今まで審議会委員が果たしてきた役割（事業・運営方針の審議、提言等）を担う人は必要でした。そこで誕生したのが公民館活動協力員でした。活動の内容は、審議会の開催が年3回程度なのに回数規定は無（何回でも可）。役割としては企画・事業運営に積極的に関わることや地域ニーズの情報収集に力点が置かれました。発足から4年半が過ぎ活動協力員の方々が活発に活動を行っている公民館とこれからという公民館もあると思いますが、公民館を活性化させてくれる大切な人材という認識は公民館職員皆同じだと思います。

その活動協力員の方々の任期が早い人は来年度で終了し再任が出来なくなります。

新潟市公民館条例施行規則第18条に「協力員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし連続して3期を超えないものとする」とあります。

新春を迎え新たな気持ちで地域社会を見る時、地域活動家やボランティアの方々に任期や定年が必要でしょうか。

18条のただし書きを再考する時ではないかと考えています。

HOT NEWS 掲示板

平成24年度 主な大会開催予定

1　**第63回新潟県公民館大会**
平成24年7月20日（金）
糸魚川市　青海総合文化会館

2　**第53回関東甲信越静公民館研究大会**
平成24年9月27日（木）～28日（金）
長野県松本文化会館

3　**第34回全国公民館研究集会**
平成24年10月11日（木）～12日（金）
滋賀県大津市民会館

4　**第12回新潟県社会教育研究大会**
平成24年10月19日（金）予定
妙高市文化ホール

5　**第54回全国社会教育研究大会**
兼第43回関東甲信越静社会教育研究大会
平成24年10月24日（水）～26日（金）
山梨県甲府市総合文化会館

ひろば

被災地を思いやる心

柏崎市社会教育委員　西村　徹

職場（郵便局）の企画で、地元の小学生に「東日本大震災の被災地域の小学生に励ましのメッセージを送りましょう」と呼びかけたところ、近隣の5校から約500枚のはがきが集まり、岩手・宮城・福島の海岸地域の小学校約230校に発送しました。

はがきは、被災して辛い思いをしているお友達への励まし、思いやりの言葉と絵であふれんばかりで、テレビで被害の様子を見て心配していること、自分も中越沖地震の時は辛かったけれど頑張ったこと、自分の学校にも被災した子が来ていて友達になれたことなど、一所懸命考えて書いてくれていました。

今、はがきを受け取った子ども達から、お礼のはがきが届いています。自分たちの様子を知らせる言葉と絵、そして「しっかりと勉強をしてりっぱな大人になり、被害を受けたところを復興させていきたいと思います」という力強いメッセージもありました。

被害の深刻さを考えると、この子ども達が大人になったとき、ようやく「復興できた」と言えるようになるのかもしれません。今、私たち大人が思いやりの心を持って復興に力を尽くし、次の世代に繋げなければと決意を新たにしたところです。

「週末体験クラブ元気とりで」

「親子で参加、夏休み陶芸教室」　７月

セルフコディネートが理想

聖籠町町民会館の臨時職員となる前は、利用者の立場でしか見ていなかった事業、そして意見。

今、サービスする側になってみて利用者や参加者からの、自己中心的で理不尽なクレームであっても、同じ目線にならず360度、あらゆる角度から捕らえて、発展的意見として消化しなければいけない仕事なんだなと、対応する職員を見ていて思いました。又、ひとつの事業を起案し、組み立てていくプロセスの中で、事務局、職員は最小限の仕事にとどめて、骨格、肉付けは町民である役員にガンバッテもらうのが、スポーツ、文化あらゆる事業において、それが理想の事業形態かもしれないと、私は思います。

生涯学習の場、そして、それに関する情報発信の場としてあらゆるニーズにも対応できるカルチャーバンク、センターとしての役割を公民館が、その時代に合わせて変わりながら進化していくことを求められていると、プロである皆さんは、悩み、感じておられると思います。これは、職員というよりも、一町民としての私見ですが、遊びや趣味文化においては、その地域に住む人たちがコディネーターの役割を担い、そのような地域社会をつくる環境整備が公民館の使命ではないかと思います。

そして、それぞれの地域の集会場や小さな公会堂が子どもたちと大人のコミュニティーの場、分家の公民館として利用されるようになれば、極論ですが、「見て見ぬふり社会」も良い方向に変わって行くきっかけとなるかもしれません。

24時間フルタイム稼動の社会において、他人と言葉を交わさなくても、関わりを持たなくても十分生きていけるようになってしまったこの時代、ウップン晴らしが動機の無差別な通り魔、未成年による家族の殺人事件、もう、ニュースを見ていても、国民だれもが「又か、最近多いね」くらいにしか思わなくなりました。

戦後、悲しみを乗り越えて、奇跡的に国民が一丸となって復興と発展を成した日本。戦中、そして戦後を国のため、家族のために働きがんばって来られた方々のお怒りを買うかもしれませんが、日本はどこかでボタンを掛け違えていたのかもしれないと、戦後生まれの平和の時代しか知らない私ですが、そう感じています。くどいようですが、あくまでも、浅学の私の私見ですので、ご理解下さい。

東日本大震災から私が学んだこと

地震の数分後、３月11日の午後３時ごろ、テレビの「これって現実か!?」と思うほどの津波が町を飲み込む映像に体が震えていました。

数日後、聖籠町も被災者を受け入れることが決まり、９日後の３月20日、福島県南相馬から聖籠町町民会館に地震と原発事故で被災された福島県南相馬市から306人が避難して来られました。それから町内の民宿やアパートに移られるまでの一ヶ月の間、通常業務、事業は中止して被災者支援業務に堀館長の指揮の元、それぞれの係りに徹しました。そして一週間も過ぎた頃です。20歳代の被災者のワイルド風の青年が同じ被災者の小学生の女の子を肩ぐるまして遊んでくれていました。例えるなら、ライオンと子猫がじゃれている感じです。たぶん、この地震が起きなかったら触れ合うことのなかった二人。女の子は大人になっても、その青年の肩の大きさを記憶していると思います。青年は自分の心の中の、ホカホカする何かに気付いたと、私は見ていて、そう感じました。そして、こんな感じ、心の真ん中から湧き上がってくる感覚を、週末体験クラブや公民館事業の中で毎回はむずかしいですが、年に最低一回はそんなシーンを子どもたちに体感してもらいたいと夢見ています。

避難所としての役目を終え、通常業務にもどった頃の朝礼で、民宿に移られた被災者の皆さんが、町民会館を「実家」と呼んで戻りたいと言ってくれていると、堀館長から聞かされ、その時の職員全員の心の中には、ホカホカするものが湧き上がっていたと思います。

最後までお読み頂き、ありがとうございます。今年も皆様の心の中にたくさんの、ホカホカがありますように。

高松

特集　聖籠町社会教育課事業

担当
高松　勝雄

週末、子ども達の体験の場作りを目指しての巻

聖籠町の週末体験クラブは、町内の三つの小学校児童を対象に、毎週土曜日の午前中に行っております。会場は、町民会館（公民館）や、各小学校区の公共施設を利用して事業を行っています。三小学校児童合わて865人中、約70人程がクラブに登録して参加してくれています。週末体験クラブについて、話を進める前に、自己紹介も必要かなと思いますので、少し間、お付き合い下さい。

私は聖籠町の臨時職員です。この仕事を頂き、三年となりますが、その前は民間企業で20年勤めました。経営難の為、会社側からの希望退社の話に、正直なところ、非常に迷いましたが、「もしも、この先、勤めて会社が廃業となったら…」と、45歳、年齢的にラストチャレンジと思いまして、新たな道を目指し、兼ねてからの夢であった音楽関係の仕事を始めましたが、３年で見事こけてしまいました。そんな時、今の仕事の話を頂き、現在に至っております。その時の私を例えるなら、海で遭難中に、突然現れたヘリコプターに救助された状況に等しいかと思います。

このような私ですが、以前に幼稚園の保護者懇親会で上手く乗せられてしまい、受けてしまった役員代表と、繋ぎで一年でいいからと、押し切られて受けた小学校のPTA会長の経験がありましたので、何とかなるかな、と思い、降ろして頂いた救助ロープにすがりました。

さて、そんな状況で頂いた仕事ですが、はじめての、企画は、私の好きな分野の音楽で行こうと考えて、「オリジナルＣＤを作ろう」という、私が以前作った曲に、子ども達に詞を考えてもらい、それを歌い、録音するという内容の事業でした。

「ミュージシャンに挑戦しよう」
町の音楽祭に出演しました　11月

子ども達が予想以上に一生懸命取り組んでくれ、生き生きと歌ってくれる様子を見て、新鮮な感動を覚えました。そして、以後の事業内容を、「創造して遊ぶ」をテーマに組み立て、安全管理運営委員（事業実施の際に子どもたちの安全の見守りと遊びのサポートを担う人たち）の協力を得ながら展開してきましたが、いつのまにか、事業の成功、失敗を参加人数と、私のシナリオ通りに子どもたちが動いた場合と決めていた自分に気付きました。回を重ねる毎に、初心を忘れて、子どもたちのための事業ということを忘れて、事業のために子どもたちを集めていたのです。スタッフの皆さんより「あまり凝った遊びより、みんな一緒に体を使った遊びの方がいいのでは」という意見もあり、インドア遊びからアウトドア遊びを軸に体験教室を行うようにしました。一年生から六年生、そして発達障害の児童も遊べる内容のときは一緒に遊んでいます。そんな学年もバラバラで、やんちゃなチビッコたちが、時々、ケンカもしながら、プチ・エコ工作や公園で宝さがし、秘密基地作りをして、想像しながら、大勢で遊ぶ楽しさ学んでくれれば、それだけの、週末体験クラブでもよいのではないかと、今は思っています。少数ですが、用事を済ませるために子どもを預ける場所にしているのでは、と思われる保護者の方もおりますが、それでもいいと私は思います。用事が済んだ分、楽になった分、そこの家庭に小さな笑顔の花が咲いて一瞬でも明るく楽しい気分になってくれれば、小さなことですが、それも週末体験クラブの、ひとつの役目でもあるのかな、と感じています。

週末体験クラブ隊員のルール

- 地球のために自然を大事にする
- 一日に一回、かならず笑顔になる
- あたまにくることがあったらゆっくり、深呼吸してみる
- だれかの苦しみを想像してまぶたのうらで映像化できること

ここで、正直なところ、まとめて終わりたいところなのですが、原稿依頼字数が約3,000字なので、新年号に相応しい内容で、尚且つ、ベテランの県内の職員の方々が読まれると想像しますと、ワードのカーソルの点滅で時間だけが過ぎてしまいます。キャリアもボキャブラリィもない私は小学１年生、そして、読まれている皆様は校長先生という設定で読んでいただければと思いますので、不適切な表現、説明不足をお許し下さい。

ひとくち情報　社会教育関係団体懇話会事務局長会　1月26日（木）新潟県生涯学習推進センター　事務局長出席予定

実践記録シリーズ 166

「多世代多地域で　つながる煮菜の日　笑顔の日」

NPO法人多世代交流館になニーナ　副代表　馬場　裕子

〈こんにちは。になニーナです〉

私たちの団体、通称「になニーナ」は、一人ひとりが生きがいを持てるようなきっかけを作り、世代や文化、分野を超えて交流することにより、個々の生活がより豊かに、元気になっていく社会つくりのお手伝いをしています。

現在は長岡蓮潟に拠点を置き、多くの方々の寄付によって完成した小さなプレハブを活用し「子育てサロン」「健康お茶会」「手仕事カフェ」などの交流サロンの開催、スタッフのスキルを生かした身体や食をテーマにした教室、郷土料理の伝承を通じての多世代交流企画、会員による多種多様の企画の開催など、多地域多世代が集える日常つくりを目指し、日々子育て世代のママたちを中心にしたスタッフが奮闘しています。

〈名前の由来は煮菜から〉

「になニーナの名前には、どんな意味があるんですか？」とよく聞かれますが、長岡地域の郷土料理「煮菜」から名前をつけました。名前に合わせて２月７日を「煮菜の日」と命名。活動によりつながりができた多地域の料理上手なお母さん方に、自慢の煮菜を持ち寄ってもらい、味も色も具材も様々な煮菜が並び、みんなで会食する「煮菜の日」を開館以来毎年開催しています。

６回目になる今年の煮菜の日は（２／７（火）パストラル長岡で開催）新潟県家庭教育支援民間提案型協働事業の助成を受け、過去最高の参加人数50人を想定しました。そこに、煮菜を作ってきてくれる地域のお母さん方、になニーナスタッフ、協力団体等あわせると、総勢100人での煮菜の日開催。これだけの規模の企画が開催できるようになった事は、今までの活動で培ってきたネットワークがあってこそ。中山間地のお母さん・お父さん方との世代を超えた温かいつながり・そのつながりを作り、サポートしてくれる復興支援員・若いパワーの学生ボランティア・になニーナの活動に賛同する企業など、多世代多業種多地域の人たちに支えられています。

〈煮菜の日が生み出す笑顔〉

昨年の煮菜の日は０歳から70歳代まで約30名が集い６種類の煮菜を味わいながら笑いあふれる交流会となりました。実演をされた料理上手のTさんは自分で栽培した味美菜を用い、色鮮やかな煮菜の作り方を披露。その様子がテレビで放映されると、翌日は「テレビ見たよ」「今度うちにも作りに来て」と、友人知人から家の電話がなりっぱなしだったと、後日とてもうれしそうに話してくれました。

小さいお子さんを連れて参加された方は、「うちの子こんなに野菜を食べたの初めて！」「こどもが喜んで食べたので、家でも作ってみます！」と、こどもの喜ぶ姿に母親もにっこり～。

そんな小さなお子さんを見て、煮菜作り名人のおばあちゃん世代は「子どもはかわいいねー」「抱いててやるからゆっくり食べなさい。」と、高齢化の進む集落では触れ合うことのない子どものあどけない姿に目を細めていました。

以前、別の企画で中山間地の高齢者と子育て世代との交流を行った「多世代交流会」がテレビ放映された時、集落のおじいちゃんが語っていた言葉が深く胸に残っています。「いつもなら、一人でごはんを食べるけど、今日は大勢で食べれて本当に楽しいし、幸せだ。もう、家に帰りたくない」この心情は、密室育児と言われる子育て世代も同様に感じていることではないでしょうか。

いつもなら、煮菜を作ってもあたり前に扱われる食が、煮菜の日はすばらしい郷土の宝としてスポットライトを浴びます。それと同じように、家庭や限られた地域を飛び出し、多地域多世代との交流の場を持つことで、互いに見えないよさが見え、認め合い、一人ひとりを輝かせ、新たな生きがいへつながるきっかけとなれば、大変嬉しい事であります。

今年の煮菜の日は、育児に積極的に関わる今流行の「イクメン」の参加も積極的に行います。料理男子も増えていく中、父親が煮菜の作り方を覚えることもいいですね。

郷土料理を家族で囲み、美味しい食卓から温かい家庭がはぐくまれる。その笑顔は地域に広がり、料理を伝えてくれた親世代へ恩返しができる。

多世代多地域多業種の皆さんと協働しながら、今年も美味しい煮菜で笑顔があふれる会を目指します。

問・申：多世代交流館になニーナ　TEL 28-8627
（平日10～16時）

circle サークル交流

男子チューボーに立とう

宿六の会

団塊の世代の大量退職に伴う受け皿としての公民館講座「初心者・男の料理教室」の受講生で3年前に結成されたサークルです。

講師にプロの料理人を迎え、魚の捌き方から加茂市のB級グルメであるマカロニ料理や蕎麦うち体験など、様々な調理の技に挑戦しています。

また、食品について学ぶため視察も行い、今年は長岡市摂田屋地区を訪れ、発酵食品について学習しました。

オヤジギャグが飛び交う中で調理を楽しんでいますが、自分たちで作った料理を味わう懇親会が一番盛り上がります。

「料理する男は恰好いい」と思いますので、ぜひ皆さんもチューボーに立ってみませんか。

（加茂市「宿六の会」　佐藤　俊夫　記）

夢は「世界」です!!

つなん火焔太鼓

私たちは、つなん火焔太鼓です。去年から始めて、一年がたちました。今は、女性15名で活動しています。まだまだ少しの曲しか出来ませんが、津南町の活性化のために、お役にたてればと思い、皆で楽しくやっています。一週間に一回の練習と地元のイベントなどに、呼んでいただき叩かせていただいています。今は女性だけですが、いずれは小さな子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんたちと、いっしょに出来たら最高です。

私たちの太鼓は、パフォーマンスなどを、取り入れたりして、「聞いて」「見て」、皆さんに楽しんでいただけるよう、頑張りたいと思います。夢は「世界」です!!

（つなん火焔太鼓　風巻　藤子　記）

素顔拝見

毎朝元気に「おはようございます！」と大きな声で出勤してくる江口満さんは、今年で村松公民館3年目です。

公民館には子どもから年配者まで幅広い層の方たちがお見えになりますが、江口さんは、どなたにも元気でユーモラスに方言を交えながら、窓口対応をするので、地域のみなさんの人気者です。

彼は6月に行われる『生き生き通学合宿』事業の担当です。これは、小学5、6年生を対象に5泊6日で親元を離れ、合宿所（五泉市チャレンジランド杉川）から学校へ通学するという事業です。小学校高学年といえ、親元を離れて長期間過ごすのは子ども達にとっては不安な事だと思いますが、彼は持ち前の明るさで、あっという間に子ども達を虜にしてしまいます。合宿中は子ども達が鴨の親子の様に彼の後ろを「えぐっちゃん！えぐっちゃん！」と呼びながらついて回ります。合宿最終日には、江口さんに抱きついて「離れたくな～い」と言う子どもが出るくらいです。

五泉市村松公民館

主査　江口　　満さん

子ども達に好かれる理由は、きっと彼がいつも「どうしたら子ども達が喜んでくれるかな？」「こんな体験を子ども達にさせたい」と考えているからだと思います。それが子ども達にも伝わっているのではないでしょうか？

これからも、元気ハツラツで活躍していただきたいと思います。　（五泉市村松公民館　主査　石本芳　記）

わが紫雲寺地区の地域づくりのために当館へ配属となった、採用1年目の中山さん。

新人さんに失敗は付き物で、当然、彼女もいろんなことを日々経験中。でも、「アッハッハ！」と小さなことなんて笑い飛ばす、なんともうらやましい性格の持ち主です。

担当業務は40年の歴史を持つ高齢者学級。気負い立つこともなく、若いアイデアで楽しい企画を生み出しています。そんな彼女のプチ目標は「60人の学生全員が学習会に出席できること」。一人ひとりに声をかけ、コミュニケーションを大切にする姿は、忘れかけていた初心を思い出させてくれます。

新発田市紫雲寺地区公民館

主事　中山恵里子さん

公民館勤務での数々の出会いは、きっと彼女の宝ものになるはず。がんばってね！中山さん。

（新発田市紫雲寺地区公民館　板垣　記）

お元気ですか

秋山千恵子（上越市）

退職し数年、民生委員や学校支援のお手伝いをさせてもらっています。ピアノやコーラスで、音楽の中に身を置くことの夢を実現できたうえ、友人たちとの語らいも楽しむ日々です。なかでもビーズ手芸には、社会教育委員の皆さんとの学習会がきっかけで出来た仲間とハマりにハマっています。既に数回、作品展を行い、ものづくりの喜びを味わっています。考えてみると、人との出会い、音楽、ビーズの色合いなど、一見別のものに以前は見えていましたが、実はみな、調和の妙が醸し出してくれる、人生の醍醐味なのかなあ、と思うこのごろです。

information

〈人権教育指導者研修会〉

主催　新潟県教育委員会
日時　平成24年１月21日（土）13：00～
会場　長岡市中央図書館講堂　長岡市学校町１－２－２
問い合わせ
新潟県教育委員会生涯学習推進課（担当　西川主事）
電　話　０２５－２８０－５６１７
ＦＡＸ　０２５－２８４－９３９６

〈いじめ根絶にいがた県民会議〉

主催　新潟県教育委員会・いじめ根絶にいがた県民会議
日時　平成24年１月31日（火）15：00～
会場　新潟県自治会館　新潟市中央区新光町４－１
問い合わせ
いじめ根絶にいがた県民会議事務局
新潟県教育委員会義務教育課（担当　森村指導主事）
電　話　０２５－２８０－５６０７
ＦＡＸ　０２５－２８５－８０８７

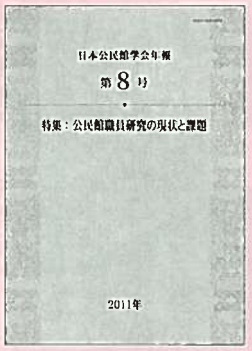
恵贈資料紹介

日本公民館学会年報　第8号

発行　日本公民館学会

このたび「公民館職員研究の現状と課題」が日本公民館学会から発行されて当会に寄贈されました。論文中心で181ページです。学会の研究誌なのでやや読みづらい感がしますが、「特集　公民館職員研究の現状と課題」では、公民館職員の位置づけやあり方について事例紹介をまじえてわかりやすく述べています。

「特別報告」では、岡山市の公民館首長部局移管問題をとりあげ、その問題の経過とまとめを報告形式で詳しく述べています。全国で直面している問題ですので、移管取り消しに向けた職員の取り組みやその運動の現状と今後の課題について述べていて興味深い内容になっています。



問い合わせ
日本公民館学会
〒305－8572
つくば市天王台1－1－1
筑波大学人間総合科学研究科人間系
生涯学習学研究室
電　話　080－3402－5967
ＦＡＸ　029－853－6721
E-mail　kominkangakkai@yahoo.co.jp

県公民館連合会事務局
〒951－8053
新潟市中央区川端町2－9
電話・FAX　025－224－6073
E-mail　ni-koren@juno.ocn.ne.jp

あとがき

事務局長のつぶやき

新年明けましておめでとうございます。昨年末のクリスマスの大雪は何とか落ち着きましたが、山沿いの地域では早くも屋根の雪下ろしが始まったようです。一昨年は平野部でも大雪になり、地吹雪で交通が遮断するなど大混乱になりました。雪の事故などないように祈るばかりです。

本年もよろしくお願いいたします。

（田原）

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊かな土地、水資源良好な自然環境等に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会
会長（妙高市長）　入村　明（会員18市町村）

新潟市中央区新光町4-1　新潟県自治会館（新潟県市長会内）
TEL 025(284)3434　FAX 025(285)3135

発行所　新潟県公民館連合会　発行人／会長　大塚美光　編集人／事務局長　田原　理　Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp
〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9-県林業会館内　TEL-FAX(025)224-6073
印刷／第一印刷所　〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776【定価1部150円 〒共・年間1,800円】